

もり 北の森林 国有林

写真：春を待つ、七飯町のカラマツ林

今月のトピック

- ・令和元年度 北の国・森林づくり技術交流発表会
- ・令和元年度 治山・林道工事コンクール受賞結果

3

2020
No. 51



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



令和元年度 北の国・森林づくり技術交流発表会

「令和元年度 北の国・森林づくり技術交流発表会」を令和2年2月18日、19日の2日間、北海道大学技術交流会館で開催しました。

技術交流発表会の名にふさわしく森林管理局署、北海道、大学、高校、業界等、多くの林業に携わる皆さんによる取組事例や研究成果の報告があり、「森林保全・ふれあい部門」5課題、「高校部門」3課題、「森林技術部門」11課題の計19課題について発表がなされました。

その中には下川町、上川北部森林管理署、旭川農業高等学校、北海道上川総合振興局北部森林室の4者が合同で取り組んだものなど、地域が一体となった発表もありました。

発表に対しては、多くの質問やアドバイスを加え、後の調査研究に向けた激励の声や期待の取組について、期待の声もありました。

また、特別発表として研究機関から3課題、北海道森林管理局森林技術・支援センターから成果の発表がありました。

特別講演では、幕別町オムニス林産協同組合瀬上陽平理事から「カラマツ製材の現状と無垢建築材への取組」と題して1時間の講演をいただき、講演後、局長から「局としても、大径材への取組が大事だと考えており、来年度は大径材の利用拡大と高付加価値化の推進について「見える化」の方向で、取り組みたい。」とのコメントがありました。

ポスター発表についても26課題の発表が行われ、多くの質問等が出るなど参加者の関心も口頭発表同様、高いものとなりました。

今年も一般部門に高校生がエントリーしたほか、高校部門における各テーマも非常に内容の濃い発表でした。

2日間で延べ四百名以上の来場者があり、各関係機関等が各地域で積み重ねてきた成果が発表されました。



新島森林管理局長の
開会挨拶

(技術普及課)

★局長賞（最優秀賞）

【森林技術部門】

造林作業の「高効率、低コスト、軽労化」我が署の取組

(十勝東部森林管理署 高村 唯花、金森 千沙、三間 武)

道内人工林が主伐の時期を迎えるなか、伐採方法等により植付等の更新対象地が増加しており、加えて、造林事業従事者の高齢化や従事者数の減少への対応が喫緊の課題となっています。これらの課題に対して、「高効率・低コスト化・軽労化」を目標にした、伐採・造林の一貫システムの推進、植付仕様の検討、コンテナ苗を利用した軽労化及び効率化、天然力を活用した森林づくりなど、課題解決に向けた積極的な取組が評価されました。



【森林保全・ふれあい部門】

「音」をキーワードにした木育の推進

～アクセシブルデザイン・スロープトイの開発と公開～

(北海道旭川農業高等学校 鈴木 晶喜、中田 隼平)

木に親んでもらうこと、地元が木の町であることへの理解を子供たちに深めてもらうため「木育」活動において手作りの木製楽器「スロープトイ」を作成。授業で得た知識や関係者の意見などを参考にしながら、アクセシブルデザインを取り入れるとともに、作品材料や安全性などにも工夫しています。

今後もさらなる挑戦により、木の持つ可能性や魅力について、広く発信することが期待されます。



【高校部門】

持続可能な森林を目指して ～針葉樹・広葉樹における樹幹流の調査～

(北海道岩見沢農業高等学校 妻鳥 桂太郎、古田 匠、下田 真都)

樹幹流が林外雨や林内雨よりも酸性傾向を示すとの報告から、樹幹流が森林土壌へ与える影響を丁寧に検証しました。酸性化した樹幹周辺の土壌ではアルミニウムが多く溶出、pH値が5.0を下回ることにより、影響が大きくなることがわかりました。樹幹流が周囲よりも低いpH値になる原因や、樹幹流以外の土壌を酸性化させる要因の究明が期待されます。



★局長賞（優秀賞）

【森林技術部門】

美幌町カラマツ間伐施業比較試験林の調査結果から

（北海道オホーツク総合振興局東部森林室 柳谷 成人、藤原 潤）

育林技術体系の確立を図るため、官民が一体となり昭和 53 年から現在まで、カラマツ人工林の林分調査を長期間にわたり実施しています。

蓄積、経営目標に応じた径級目標への誘導・仕立て方を目指した施業方法が分析されており、試験林では直接見学することで、森林所有者の施業の参考になっています。

この貴重なデータを今後も活用するなかで、地域に適した施業方法の普及・定着が期待されます。



【森林保全・ふれあい部門】

エゾシカ捕獲の効率化を目指した取組

～自動撮影カメラによる動向調査結果の活用～

（網走西部森林管理署西紋別支署 加藤 春香、寺田 崇晃、小林 和史）

自動撮影カメラを用いてエゾシカの動向を把握、調査・分析し、その結果を自治体、猟友会と情報共有等を行うことによりエゾシカの捕獲効率の向上を目指しています。

農林業被害が多く発生するなかで、適正な頭数管理を行うこと、被害を減少させることは重要な課題であり、今後も調査を進め、関係者と連携しながら更に捕獲効率が向上することが期待されます。



【高校部門】

GPS・GIS を取り入れた森林資源の管理と学習活動の展開

（北海道旭川農業高等学校 藤田 大夢、後藤 光稀）

林業分野における ICT 技術の活用が進められているなか、GPS を活用し位置情報を把握し、さらにドローンで撮影した画像をオルソ化しGIS なども用いて位置情報を見える化、森林情報を取り込むなどの取組結果を発表しました。今回得た情報と昨年実施した森林調査の結果を用いて、林分解析にも取り組んでいます。

また、市民や高校生などを対象とした林業体験等を行い、森林、林業へ関心を持ってもらう活動も行っており、今後とも ICT 技術の向上や普及活動が期待されます。



★奨励賞

【森林技術部門】

- ・ドローンの活用方法の拡充について（網走中部森林管理署 大川 直文、腰越 玲翔）
- ・屋根型構造の路盤を有する林業専用道の排水性能に関する基礎的研究（北見工業大学工学部 館林 雅治）

【森林ふれあい部門】

- ・地域ぐるみで育てる未来の林業の担い手 ～連携協定に基づく「担い手育成」とその成果～
（下川町森林商工振興課 高橋 風宇太、上川北部森林管理署 山崎 雄大、北海道旭川農業高等学校 菊地 雄斗、北海道上川総合振興局北部森林室 伊藤 裕子）

【高校部門】

- ・トドマツ集団枯死林分における稚樹の生育状況
（北海道帯広農業高等学校 石部 詩織、東海林 明日香、北橋 琴美、小杉 海星）



特別発表

1 樹種の多様性を図る更新方法の開発

～地がき・根返しから10年後の成果と今後の展開～

北海道森林管理局 森林技術・支援センター 谷村 亮、山寄 孝一

2 道産カンバ類の高度利用への技術開発 ～建材からバットまで～

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

森林研究本部 林産試験場 秋津 裕志

3 採種園着花調査及び検定林調査が果たす役割と得られた成果の紹介

～北海道育種場と北海道森林管理局特命森林調査隊（モリサー）の調査成果～

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場 花岡 創

4 トドマツ人工林伐採後の地がき施業によるカンバ類の更新

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 北海道支所 伊東 宏樹



特別講演

カラマツ製材の現状と無垢建築材への取組

オムニス林産協同組合

理事 瀬上 陽平 氏



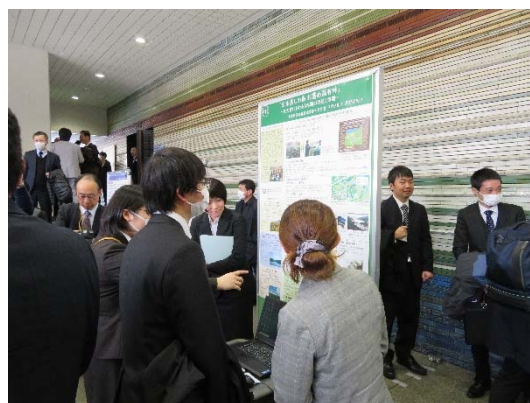
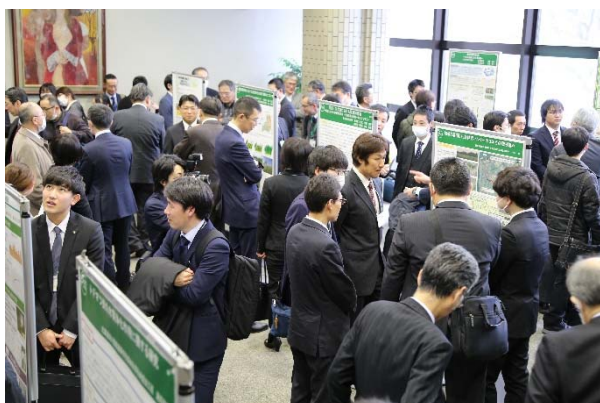
最終日の2月19日に、オムニス林産協同組合の瀬上理事より、カラマツ製材を取り巻く現状、大径材の活用と高付加価値化への取組などについて貴重な講演をいただきました。

講演では、平成3年に設立されたオムニス林産協同組合の事業内容の紹介や近年、原料背景が変化して、カラマツ製材の市場が大きく変わり、パレット材や梱包材としての利用が減少するなか、カラマツ無垢材の建築材を生産する新たな取組や課題についてお話ししていただきました。

今後の森林施業のあり方に対して、示唆に富む内容で大変参考となりました。



パネルポスター発表会場



受賞おめでとうございます

令和元年度 治山・林道工事コンクール受賞結果

治山・林道工事コンクールは、前年度に発注した工事を対象として構造物の仕上がり状況、施工管理、安全管理、自然環境への配慮等を総合的に評価し、優れた工事を表彰するもので、施工技術の向上について関係者の意欲高揚を図るため毎年開催しています。

今年度については、治山工事57件、林道工事39件の中から林野庁長官賞10件、北海道森林管理局長賞9件の工事が受賞となりました。

また、林野庁長官賞を受賞した工事の中から、特に優秀な主任(監理)技術者6名の方が北海道森林管理局長賞を受賞されました。

受賞した各工事は、現地に応じた工種等の工夫、仕上りの良さなど品質確保、自然環境への配慮などに努めたことが高評価に繋がりました。

なお、林野庁長官表彰式は2月19日、林野庁において行われました。

また、北海道森林管理局長賞表彰式は、残念ながら新型コロナウイルス



紋別川(2185林班)治山工事

感染症拡大防止の観点から、伝達とさせていただきます。

(治山課・森林整備第二課)



田中工場の沢林道小錫の沢支線二の沢分線(林業専用道)新設工事

受賞工事

【林野庁長官賞】

部門	署名	工事名	会社名
治山	空知森林管理署	の かなん 野花南地区治山工事	日成建設株式会社
治山	宗谷森林管理署	リヤウシナイ川治山工事	株式会社飯島組
治山	網走中部森林管理署	ひよし 日吉地区治山工事	水元建設株式会社
治山	根釧西部森林管理署	しんぬいべつ 新縫別治山工事	村井建設株式会社
治山	後志森林管理署	もんべつかわ 紋別川(2185林班)治山工事	株式会社工藤組
林道	石狩森林管理署	でとまた 出戸股第一林道(林業専用道)新設工事	岸本産業株式会社
林道	北空知支署	しんしりゅう 志内支流林道(林業専用道)新設工事	株式会社廣野組
林道	網走西部森林管理署	つきあとりげん 月見峠線林道改良工事	興和建設株式会社
林道	東大雪支署	たうしゅべつ 多有珠別林道災害復旧工事	イチエイ山田建設株式会社
林道	後志森林管理署	たなかこうば 田中工場の沢林道小錫の沢支線二の沢分線(林業専用道)新設工事	藤信建設株式会社

【北海道森林管理局長賞】

部門	署名	工事名	会社名
治山	日高北部森林管理署	みぎご さわ 右五の沢治山工事	丸彦渡辺建設株式会社
治山	上川中部森林管理署	うきしま 浮島地区災害関連緊急事業	株式会社橋本川島コーポレーション
治山	網走西部森林管理署	なかのさわ 中ノ沢治山工事	株式会社渡辺組
治山	十勝東部森林管理署	クンタルシブイ治山工事	西岡建設株式会社
治山	檜山森林管理署	ひめかわ 姫川地区治山工事	株式会社杉沢組
林道	日高南部森林管理署	ひがしかわみぎせん 東川右線林道災害復旧工事	株式会社笹田組
林道	上川南部森林管理署	ふじまつ 藤松林道(林業専用道)新設工事	株式会社旭友興林
林道	十勝西部森林管理署	きたしみず 北清水林道改良工事	笹谷建設株式会社
林道	渡島森林管理署	ごろう べえさわ 五郎兵衛沢作業道(林業専用道(規格相当))新設工事	渡辺建設株式会社

高い技術力により、安全にかつ優良な工事を施工されていることに対し、心から敬意を表します

主な受賞工事

北海道森林管理局長賞

治山工事

【工事名】
右五の沢治山工事

【工事概要】

当該箇所は、平成28年8月に発生した大型で強い台風10号により直下の国道に土砂が流出し、不安定土砂が堆積し再び流下するおそれがあることから施工した工事です。



コンクリート谷止工

コンクリート谷止め工に永久埋設型の垂直型枠を使用し、2断面のコンクリートを同時に打設し、

工事工程の削減を図りました。

更に、安全管理も徹底されており、出来形、品質ともに良好に施工されていたことなどが高い評価を受けました。

林道工事

【工事名】

藤松林道（林業専用道）新設工事

【工事概要】

トータルステーションに位置情報を入れて測量することで従来より早く



人工林にアクセスしやすい林業専用道

正確に工事の計画線を入れることが可能となり作業効率を向上させました。

更に、通勤路として使用する町道部分で清掃、側溝整備、アスファルト補修などを実施し、地域への貢献を行っています。

また、工事箇所周辺に公園や保育所があるため、立ち入り禁止ネットを張り事故防止に努めるなど安全面にも配慮されていることなどが高い評価を受けました。



東川右線林道災害復旧工事（橋梁工）

主任（監理）技術者

林野庁長官賞受賞工事10件のうち、治山の部と林道の部でそれぞれ3名

の方が、工程管理・品質管理などの各段階で高い技術力と管理能力が発揮されたものと認め受賞されました。

今後も技術の研鑽に努められ、品質の高い施工に努めていただくようお願いいたします。

【北海道森林管理局長賞 主任（監理）技術者表彰】

部門	署名	工事名	受賞者
治山	宗谷森林管理署	リヤウシナイ川治山工事	株式会社飯島組 三浦 和也
治山	網走中部森林管理署	日吉地区治山工事	水元建設株式会社 嵯峨 孝一
治山	後志森林管理署	紋別川(2185林班)治山工事	株式会社工藤組 種田 哲也
林道	石狩森林管理署	出戸股第一林道(林業専用道)新設工事	岸本産業株式会社 鳴海 高志
林道	東大雪支署	多有珠別林道災害復旧工事	イチエイ山田建設株式会社 吉本 守
林道	後志森林管理署	田中工場の沢林道小錫の沢支線二の沢分線(林業専用道)新設工事	藤信建設株式会社 島下 忠紀

【北海道森林管理局長賞 監督職員表彰】

部門	署名	工事名	受賞者
治山	空知森林管理署	野花南地区治山工事	農林水産技官 鶴谷 昌志
治山	宗谷森林管理署	リヤウシナイ川治山工事	農林水産技官 出野 伸明
治山	網走中部森林管理署	日吉地区治山工事	農林水産技官 桐山 博行
治山	根釧西部森林管理署	新縫別治山工事	農林水産技官 海富 教嘉
治山	後志森林管理署	紋別川(2185林班)治山工事	農林水産技官 大口 哲史
林道	石狩森林管理署	出戸股第一林道(林業専用道)新設工事	農林水産技官 中塚 祥憲
林道	北空知支署	志内支流林道(林業専用道)新設工事	農林水産技官 野々村 詠子
林道	網走西部森林管理署	月見峠線林道改良工事	農林水産技官 藤本 拓
林道	東大雪支署	多有珠別林道災害復旧工事	農林水産技官 荒 一博
林道	後志森林管理署	田中工場の沢林道小錫の沢支線二の沢分線(林業専用道)新設工事	農林水産技官 星 雄介

地域に親しまれる防風林をめざして



空知森林管理署

【Ⅰ 防風林のはたらき】

空知森林管理署管内の石狩平野部には、防風保安林に指定された約300haの「防風林」があります。

防風林は、強風から農作物、道路、鉄道、住環境などを守る林で、強風に付随する吹雪・飛砂などを防ぐ働きがあります。

風を弱める効果は、風上側で林の高さの5倍、風下側で20倍の範囲で減風効果があると言われています。

また、樹木や野草、鳥獣・昆虫などの生息空間となっているなど人工工作物では果たせない多面的な機能を有しています。

【Ⅱ 防風林の現状と課題】

防風林は、戦前から戦後にかけて造成され、林齢が60年～80年のものが半数となり、樹木の成長とともに自然淘汰が進み、枝枯れや枯死した樹木が増加してきています。このため、台風の接近や強風により隣接する農

地、道路、住宅への倒木や、落枝などの発生件数が増加してきている状況になっていきます。これらに対応するため、防風林を計画的に整備していくことや、防風林の役割などについて地域の理解を得ることが課題となっています。

【Ⅲ 課題解決に向けて】

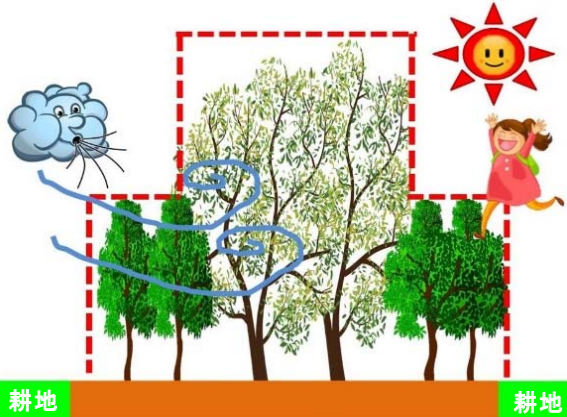
当署では、防風林の改良として「凸型林型化による防風林の機能向上」を目指した取組を進めているところですが、



防風林での自然散策会

具体的には、倒木、落枝などによる隣接地への被害や、樹木の作る日陰に

よる農作物への影響、農業機械等の接触を抑制することを目的に、防風林を両端と中央の3つに分けて、防風機能を維持しながら段階的に伐採し、両端に成長しても高くない低木類を、中央に高木類を植栽し「凸型林型」に育てていくという取組です。



凸型林型(完成図)

今後、この取組を計画的に進めていきます。また、防風林が所在する自治体と連携して取り組んできた、地元説明会や、防風林内を会場とし

た植樹祭や森林教室などは、地域の皆さんに防風林の役割を伝える大切な機会と位置づけ、今後も継続して進めていきます。



防風林での植樹祭

【Ⅳ 親しまれる防風林へ】

これらの取組を継続・展開させることにより、防風林が発揮している大切なはたらきを、広く地域の皆さんにご理解していただくとともに、身近な国有林である防風林に親しんでいただき、地域の皆さんと手を取りあつて、防風林を地域の財産として、将来に引き継いでいきたいと考えています。

こんにちは 森林官です!

檜山森林管理署
奥尻森林事務所
森林官 中山 晃一



管内の自然と森林

奥尻森林事務所は、北海道南部の西方沖約18kmに位置する奥尻島(11奥尻町)の国有林を管理しています。島の約8割が森林で、このうち約6割が国有林です。

全域が檜山道立自然公園内で、大半がブナ・チシマザサ群落ですが、特別地域の西海岸は、イタヤカエデ、シナノキ等を伴う海岸風衝林です。

一見、よくあるブナ林に見えますが、北海道内の他の地域のブナ林とは遺伝的に特異である可能性が示唆され、離島のブナ自生北限に位置し、学術的価値が高いことから、奥尻島生物群集保護林を設定し保護しています。



早春、ブナ保護林の芽吹き

管内の人とくらし

主要な産業は、漁業や観光業です。米、日本酒、天然水、ワイン、酪農等の産業もあり、いずれも、健全な森林の確保が必要なものとなっています。



眼下に広がる牧草地、ブドウ畑、光る海

奥尻は離島のため、フェリーでの輸送費が非常に高く、木材を島内で角材などに製材することで、コンパクト化するとともに付加価値を向上させて、各地へ出荷する取組をしています。製材端材は「木質バイオマス燃料」として島内で利用しています。

また、平成5年7月に起きた北海道南西沖地震により甚大な被害を受けま



平成30年の災害時の様子

したが、米やワイン、地酒など、おくしりブランドの構築や津波被災の経験を防災教育としていかすなど、島民が力強く歩みを進め復興しました。

現在も島民による地域活性化に向けた様々な活動や取組が行われており、イベント等に積極的に取り組まれました。

森林官の仕事

通常の業務として、間伐・林道修繕等各種作業の監督や森林の現況・搬出・環境などを把握するための地況・林況調査、砂防ダム・水力発電所・道路・水道などくらしに関わる貸付状況の管理を行っています。

また、平成30年の豪雨により各地で被害が生じたことから集中的に行われている治山工事の監理や森林教室など森林環境教育の講師、鉱石販売業務、遊歩道管理、イベント参加、島内で行われる各種会議への出席などを行っています。



森林教室の一コマ

感想や想い

島民の皆様を始め関係者の方々には、大変お世話になっており感謝しております。

また、現在は、先輩達の礎をなぞり、なんとか日々の業務をこなしている現状ですが、自らの足跡を一部でも地域振興の糧としていただけるよう今後とも努力していく考えです。



センター通信

森林技術・支援センター



森林技術・支援センターでは、道内国有林を活動フィールドとして、地域で求められる林業技術の開発・普及に取り組んでいます。

今回は、北海道の主要な人工林樹種であるカラマツの天然更新技術の開発事例について紹介します。

取組の概要

上川南部署管内の昭和34年植栽のカラマツ人工林（主伐時の林齢56年生）について、40m幅の帯状皆伐（誘導伐）を実施するとともに、バックホウのバケットを用いて、B層を露出させる「地がき」を実施しました。なお、この「地がき」で、ササ類の根系を切断することによって天然更新を期待します。

「地がき」を行って3年目



「地がき」直後の様子

の更新状況を調査したところ、3年間にわたってカラマツ種子の豊作年には該当しなかったものの、更新本数は、国有林の更新完了基準（1万本/ha）を上回る1万9千本/haであることが確認されました。



環状剥皮したカラマツの種子供給及び発芽の状況

なお、この時点では、北海道が定めた民有林の更新完了基準（植生高150cm以上3千本/ha）には至らなかったものの、「地がき」実施から4年目にあたる令和元年度の成



地がきから4年目の状況

長量は、コンテナ苗のものと遜色のないことから「地がき」実施から5年目にあたる令和2年度には、植生高が2mを超え、北海道の更新完了基準も満たすことが見込まれます。

今後の展望

森林の有する公益的機能を十分に発揮させるためにも、天然更新による森林施業を行う場合には、これを可及的速やかに、確実に完了させる必要があります。このような観点から、既存のカラマツ人工林を対象とした、「帯状皆伐」と「地がき」の組み合わせは、初期成長に優れた陽樹であるカラマツの特徴を活かした施業体系といえます。また、これにより、森林のモザイク的な配置を低コストで確保できるといったメリットもあります。

なお、一番の不安要素である種子の供給については、環状剥皮（※）を施すことで人為的に供給量を確保することが可能です。

今後は、更新完了後の保育

技術や野鼠被害等の対策に重点を置き、技術開発を継続していきます。

※環状剥皮

人為的に着花を促進させ、種子供給を確保するための作業手法の一つです。



環状剥皮の状況

環状剥皮は、形成層まで鋸で切れ目を入れ、数cmの帯状に樹皮をはがすことにより行います。これを上下に半周分実施することで、水や養分の移動を制限させ、着花量を人為的に増やすことが可能となります。剥皮は花芽の分化前に実施することで、翌年以降、数年間は効果が持続します。



カラマツの着花

令和元年度 国有林モニター会議

北海道森林管理局では、開かれた「国民の森林」として国有林野の管理・経営を行うため、2年間に任期とする国有林モニターを、公募により全道各地の48名の方にお願しいし、国有林に対するご意見ご要望を伺っています。



新島森林管理局長の挨拶

このたび、今期のモニター活動の締めくくりとなる国有林モニター会議を2月15日（土）、北海道森林管理局大会議室において、開催し、各地からモニター22名に参加いただき、北海道森林管理局や北海道の国有林などに対するご意見・要望などをそれぞれお聞きしました。

会議のはじめに、北海道森林管理局長から「北海道国有林の人工林は、針葉樹と広葉樹が様々な割合で生育しているのが特徴であり、この特徴を活かしながら公益的機能が高い、百年、二百年生のかつて北海道にあったような森林づくりを目指します。また、国有林と協調出荷してもらうことにより、民有林の森林所有者にも利益がでるよう、事業を実施して参ります。」と挨拶を行いました。



会議会場の大会議室

続いて、各国有林モニターから、この2年間の活動を振り返りながら、感想や要望等を話していただきました。



2年間の活動を振り返るスライドショー

国有林モニターから、「これまで以上に森林に関心を持つようになった」、「局長の話にあった北海道ならではの森林づくりに希望を感じた」といった感想のほか、「森林管理局のロビーに展示されている漫画のポスターがとても良かった。是非、次世代の子どもたちのためにこういうものを活用して欲しい。」という要望があり、次年度に道内の小中学校に配布することを説明しました。その他、「森林管理局では今後ドローンをどのように活用するのか」という質問が

あり、「ドローンを災害対応にどんどん活用していきたい。そのために、各署に3台のドローンを配置している。今後は、ドローンによる撮影の精度や調査範囲を向上させていきたい」ということを説明しました。



国有林モニターとの意見交換

また、「次期のモニターに応募するよう知人に勧めた」、「モニター終了後は森林ボランティアとして森林に関わってきたい」などの言葉もいただきました。今後、北海道森林管理局としましては、これらのご意見を業務運営に活かして参ります。

(企画課)

今月の表紙

七飯町の吉野山にあるカラマツ林です。
寒さに震えて、雪の下になっていたササが、ぴょんぴょんと頭を出して、久しぶりに森林に緑が戻ってきました。
カラマツは漢字で落葉松と書き、冬には葉を落とします。そのためでしょうか、他の林に比べて雪解けが早く感じられ、一足早く春が来るような気がします。

もり
広報 「北の森林 国有林」3月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70番
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>